

「70年を振り返って」

(有)兵庫スクリュウ商会 代表取締役 うへだ とよゆき 上田 豊之



住 所: 加古川市加古川町平野21-3
T E L: 079-423-0121
営業内容: 農機具販売・修理

私の会社も今年でちょうど70年を迎えました。子供の頃の記憶では町と言えるのは加古川駅周辺のみで商店街は小さな店が軒を並べていました。それ以外の地域は延々と広がる田んぼの中に点々と集落がありました。

そんな時代背景の中、父が国道2号線平野地区に農機具店をおこしました。人力・牛の時代から農作業の重労働を軽減する画期的な機械が登場し始めた時代でもありました。米の収量は少なく、収入も限られた農家にとって農機具の

価格は決して安いものではありませんでしたが、それでも機械はよく売れました。今思うと無理をしても買っていたのだらうなあと思います。その後も便利で効率的な機械が次々と開発され、農家へと止むことなく提供されていき、農家も商売も活気がある時代でした。しかし、農業の機械化、農薬や化学肥料の進化による効率化、それに伴う栽培技術の向上により食料不足・米不足の時代から今度は米が余る時代になり、米の減反政策の影響もあって商売は横ばいになっていきました。

時代は進み、加古川市の海岸地帯は大規模企業の工場が立ち並び、駅周辺は大型店舗が次々と増え、それに伴う人口増で農地は次々と住宅地が変わっていきました。農地が消えていくに従って農家のお客さんも減っていききました。農機具関係の同業者も大手メーカー直営の会社を除き残念ながら個人商店は廃業するところも増えました。これも時代の流れというものでしょうか。

私は2代目としてこの仕事を始めてからもうすでに45年くらいになります。昨年大病を患って入院し、今まで毎年続けてきた自分の田んぼの田植え・稲刈りといった米作りを休まざるを得ませんでした。入院中のベッドからは窓の外の景色しか見えませんでした。

手と足を勝手に動かそうとしている自分を感じる事がありました。そんな時自分は仕事や田んぼをずっと長い間やってきたのだなあ・・・と苦しみよりも嬉しさを実感したものです。

今はリハビリをしながら仕事に復帰し、しんどいながらも周囲の方々の励ましを受けて何とか頑張っています。大病から1年経ちましたが、仕事をしながらそれ以外の社会交流もできるようになった事をありがたく思っています。今はちょうど田植えの時期です。昔に比べれば水田の中の生き物は減り、カエルの鳴き声もあまり聞かれなくなりました。皆人間が変えてしまったこととです。70を過ぎ、この先どれだけ頑張れるか分かりませんが、農業に関わることで大切な自然を少しでも取り戻し、未来の子どもたちに安心・安全な食を伝え残したいと思っている今日この頃です。

